

NO. **403**
2023.8・9

CENTER NEWS





専務理事就任のごあいさつ

専務理事 八谷 誠

2023年5月29日の第43期通常総会において、協同組合関西地盤環境研究センター（以下センターと呼ぶ）の専務理事に就任いたしました八谷 誠（はちや まこと）と申します。いつも組合事業にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。専務理事就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

まずは私の経歴を少し紹介させていただきます。前職は中央復建コンサルタンツ株式会社に勤めておりました。入社（1986年）当時は土質調査業務を担当していたこともありセンター（当時は（協組）関西土質研究センター）には随分とお世話になっておりました。土質調査・解析業務のほか、軟弱地盤対策検討・設計、地下水に関わる調査・解析・対策検討などを経験し、ここ10年ほどは道路防災点検や防災対策設計に携わってまいりました。センターとの関わりとしましては、1995年から「収益事業検討小委員会」のちの「事業検討小委員会」に所属することになり、文字通りセンターの収益事業になることは何か？あるいは、土質試験の単価などの検討を行ってきました。大きな仕事としましては、現在の摂津試験室への移転に関する基本的事項の比較検討を実施したことでした。その後、2013年にはセンターの理事に推薦され、以来10年間外部からセンターの経営に関与することになりました。振り返れば、中央復建コンサルタンツに37年、そのうちセンターに関わること27年になります。

歴代の専務理事は、初代より井上啓司様、澤孝平様、佐藤和志様、中山義久様らで、私は5代目となります。先輩専務理事らは、みなさん大きな業績を残されてまいりました。私としましては、社会経済環境が目まぐるしく変化する昨今、大きな役割を背負うことになり、身が引き締まる思いでいっぱいでございます。

ところで、公益社団法人土木学会が2022年9月20日、「地盤の課題と可能性に関する声明」¹⁾を発表したことはご存じでしょうか。そこには、『地盤』は国土・都市計画から構造物の計画・調査・設計・施工・維持管理まで、国土やインフラに関わるすべての分野に共通する「土木工学のハブ」であり、「汎土木工学フロンティア」であり、かつ地形学、地質学、地球物理学などを含めた「土木工学の拡張フィールド」であると認識され、地盤を取り巻く課題に対する処方箋が述べられています。その中で地盤調査に関しては、その重要性がうたわれるとともに、1) 見えない地盤を見える化する技術、および2) 地盤モデルの精緻化・高度化が肝要であると述べられています。土質試験に携わる者として、上記1)、2)の発展のために試験結果の品質向上と技術開発の手を緩めるわけにはいきません。

話は変わりますが去る7月27日、センターではISO9001に関して、第8回再認証審査及び登録範囲拡大審査を受け、無事に審査合格する予定でございます。2002年に「技術」・「総務」の両分野を対象にISO9001を取得しておりましたが、一時「技術」を外しておりました。このたび、再度「技術」を登録範囲に戻すため新たにマニュアルを整備しなおしました。いつも行っ

ているルーチンの中にこのシステムをはめ込むように配慮したものとなっています。下記に示す品質目標を愚直に達成するための手段・ツールとして、このシステムを積極的に活用していきたいと思っています。

品質目標：「顧客の満足・期待に応える製品およびサービスを提供する」

- 顧客ニーズの把握に努め、より信頼されることを目指します。
- 法令・規格・基準を順守し、社会的役割と調和のとれた発展を目指します。
- 品質マネジメントシステムを効果的に運用し、有効性を継続的に改善していきます。

また、下記のフレーズは、約14年前から掲げてきたものですが、これを社是とすることを、改めて宣言します。センターの経営理念と行動規範および上述の品質目標に対して、言い得て妙だと思っています。

『組合員に、業界に、社会になくしてはならない存在を目指す』

さて、専務理事に就任して2か月（原稿執筆時点）が経過しました。最初の1か月は各組合員様のところへ専務理事交代のご挨拶に伺いました。各組合員様がどのような環境でお仕事をされているのか実際にみることができ、とても有意義な時間であったと感じております。今現在は、理事会に上程すべき検討課題に対応するべく日々汗をかいております。その中の一つであります今期からの中期経営計画（2023-2025）を大至急策定しなければならないという状況です。

現在作成中の経営基本方針（案）は、①経営基盤の安定化、②顧客満足度の向上と市場拡大、③品質向上と生産性の改革、そしてこれらを達成するためには「人」が大事であることは言うまでもなく④技術力の向上と人財育成、ならびに⑤ジオ・ラボネットワーク間の関係強化などからなります。基本的には中期経営計画（2020-2022）からの継続性を重視しています。理事会で検討を行い、仕上げていく所存です。この成果は、秋の臨時総会の場で公表する予定です。

人財育成の一環として、センター職員の技術力底上げを目的とした取り組みを始めたところです。今年度から顧問になっていただいた大阪公立大学名誉教授 大島昭彦先生の絶大なるご協力のもとセンター職員に対する「土質力学基礎講座」を始めました。徐々に成長していく様子を温かく見守っていただければ幸いです。また、ミスやクレームをなくすためにもコミュニケーションの重要性を訴えており、基本的な動作を励行するよう努めてまいります。

この他にも処遇改善に向けた検討、働きやすい職場環境の整備検討など、直面している課題に対して日々対応しているところでございます。

これらの事柄を一つ一つ地道に行っていく所存でございますので、どうかご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

¹⁾ 土木学会 地盤の課題と可能性に関する総合検討会：地盤の課題と可能性に関する声明、2022年9月20日、https://committees.jsce.or.jp/jiban_kento/node/7



顧問就任に当たって

顧問 大島 昭彦

(大阪公立大学名誉教授・特任教授)

私は2023年3月末をもって大阪公立大学を定年退職し、同年4月からセンターの顧問としてお世話になることになりました(ただし、現在も大阪公立大学都市科学・防災研究センターの特任教授としても務めています)。自己紹介を兼ねて、これまでの私の大学での研究履歴と今後のセンターでの貢献について書かせていただきます。

私は1979年(昭和54年)4月に大阪市立大学工学部土質工学研究室(現 地盤工学研究室)に配属されてから、44年間地盤工学の研究を行いました。1979年当時の研究室は、三笠正人先生、高田直俊先生、望月秋利先生、東田淳先生が、学生の教育・研究の指導を行っていました。中でも高田先生、三笠先生からは直接強い指導を受けました。センターとの付き合いは大学助手になった1988年頃からで、毎年のように土質実験の授業用粘土ブロック試料(業務で残った試料)をいただきに、当時の守口試験室を訪問し、当時の井上さん、中山さん、稲角さんに土質試験の状況をお聞きし、各種土質試験機を見学させていただきました。また、ここ数年には、私の地盤調査の研究での粘土試料のコア抜きの実施と繰返し圧密試験のために自動圧密試験機を頻繁に借用しました。その際には日常業務に割り込んで、大変お世話になりました。

私の大学での学生から助手・講師時代(20代～40代半ば)は、圧密、せん断、地盤改良などの基礎研究が主で、研究室内で圧密試験、圧密計算、せん断試験、遠心模型実験などを行っていました。圧密の研究は、均質粘土層及び不均質粘土層の圧密解析プログラムの開発を行うと同時に、プラスチックボードドレーン(PBD)打設地盤の沈下予測方法、粘土の圧密特性の表し方の提案などを行い、その後の帯水層蓄熱システム(ATES)による繰返し圧密沈下予測、夢洲(万博用地)の圧密沈下予測に繋がりました。せん断の研究は、始めに粘土の強度異方性の研究を行い、一面せん断試験の基準化、一面・単純せん断試験機の開発、さらに繰返し一面・単純せん断試験による液状化強度の研究を行いました。地盤改良の研究は、サンドコンパクションパイル(SCP)改良地盤の遠心模型実験を行い、1987年から10年間、重錘落下締固め工法の研究を行い、このテーマで1997年に学位を取得しました。その後もPBD打設地盤の圧密促進効果と沈下予測方法を調べる遠心模型実験も行いました。

40代半ばの助教授の頃から徐々に現場を対象とした応用研究が増えました。当時、大阪地域の地盤情報データベース(DB)を用いて地下水位低下による地盤沈下量を求める研究を行っていましたが、DB登録の生データは深度方向に飛び飛びのもので、精度よく沈下量を求めることが困難でした。そんな中2004年に、あるコンサルタントの方が大阪市此花区の現場で沖積粘土層の連続サンプリングを行い、無償で乱れの少ない試料を私に提供してくれました。その粘土の物理、圧密、強度特性を細かいピッチで徹底的に調べ、地下水位低下による地盤沈下量の予測を行いました。それがきっかけになり、種々機関の協力と自前の研究費で毎年3地点程度をノルマとして沖積、洪積粘土層の連続サンプリングとその土質試験を行うようになりま

した（これはその後に基準ボーリングと呼ばれました）。その結果と関西圏地盤情報 DB を用いて大阪・神戸地域を対象として「250m メッシュ浅層地盤モデル」を構築し、地下水位低下による地盤沈下と液状化対策効果の予測を行いました。このテーマはいつのまにか私のライフワークとなりました。この地盤モデルは WEB 上で完全公開していますので、一度ご覧下さい (<http://www.geo-library.jp>)。

さらに、2010 年 9 月に田中洋行先生（当時 北海道大学教授）が北海道厚真町で行う地盤調査に参加し、ボーリング（標準貫入試験・サンプリングを含む）、動的・静的コーン貫入試験、他の地盤調査の一斉試験を行いました。これが私に地盤調査の面白さを植え付けたきっかけとなりました。その頃には材料学会の研究会で「戸建住宅の地盤改良・補強工法」の書籍を発行したこともあり、宅地調査を行うハウスメーカーや調査会社の方々とも近い関係にあったので、同年 11 月に東大阪市で 10 社が参加する地盤調査一斉試験を行いました。翌 2011 年 3 月の東日本大震災によって住宅地盤の液状化判定と対策が喫緊の課題となり、その目的に対する地盤調査一斉試験を同年 11 月に千葉県浦安市（15 社）、2012 年 11 月に滋賀県守山市（18 社）で実施しました。住宅地盤を対象とする地盤調査法は比較的簡易なものが主であるため、これまで他の試験との比較があまりされていなかったようで、一斉試験に多くの機関が集まり、特にスクリーウエイト貫入試験（旧称：スウェーデン式サウンディング試験）と大型・中型動的コーン貫入試験の要因分析や N 値や室内せん断試験との相関関係が求められ、液状化判定のための試験改良もなされ、それなりの役割を果たしたと思っています。2012 年～2013 年はたまたま国土交通省の建設技術研究開発費補助金を得ることができたので、年間に日本各地で 4～6 地点の地盤調査一斉試験を実施しました。補助金が切れた後も何とか資金を工面して年間 2～3 地点の地盤調査一斉試験を現在まで続けてきました。50 代の教授になってからはヘルメットを被り、長靴を履いて現場の第一線で地盤調査を行うことが普通になり、またそれが喜びとなりました。学生もよくついてきてくれたと思っています。最終的には、始めに行う地盤調査が核となり、調査結果を用いて、圧密沈下を予測する、せん断特性を比較する、地盤改良効果を把握する、地盤情報へ反映する、というように各テーマが完全にリンクするようになりました。気がつけば、これまでに北は北海道、南は九州までを対象に 42 地点で地盤調査一斉試験（粘土層単独のサンプリングも含めると 65 地点）を行いました。

地盤調査一斉試験の中でもサンプリングした粘土試料の物理試験と力学試験はしっかり実施し、特に圧密試験、一軸圧縮試験、一面せん断試験は徹底的に実施しており、そのノウハウは誰よりも知っていると思っています。今後はそれらをセンター職員の方にも伝授したいと思っています。その目的で本年 6 月から、一月に 2 回のペースで「土質力学基礎講座」と称したセンター職員向けの講義（毎回 1 時間、物理特性から力学特性まで）を始めました。その中で土質試験の研究の種（シーズ）となる内容も提供しており、職員の研究活動や技術研鑽に結びつけばと思っています。さらに今後は、組合員の皆さんにも私のこれまでの地盤工学に関する研究経験・業績を何らかの形で公開していきたいと考えています。

今後とも引き続き、ご支援・ご鞭撻いただくようよろしくお願い致します。

7月

定例理事会

Regular board of directors

7月理事会資料をメールで送付の上、持ち回り開催とした。
令和5年7月25日（火）全理事に資料を送付し、7月31日（月）までに意見を回収した。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
- 2) 6月分事業報告の件

【審議事項】

- 1) 賛助会員新規入会申し出の件

8月

定例理事会

Regular board of directors

令和5年8月24日（木）15時00分より、ガーデンシティクラブ大阪会議室にて理事8名が出席して開催した。
定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
7月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 7月分事業報告の件
- 3) 令和5年度1/3期実績報告の件
- 4) 組合職員採用について（令和6年3月大学卒）
- 5) 圧密試験機（テスコ製）納品報告
- 6) その他の件

【審議事項】

- 1) 有限会社ピュアソイル賛助会員新規申込みについて
- 2) 第4次中期経営計画（2023-2025）骨子（案）について
- 3) 土質試験の単価について
- 4) その他の件
 - (1) センターニュースの件
 - (2) 賃金等改定委員会について

第58回地盤工学研究発表会に参加しました

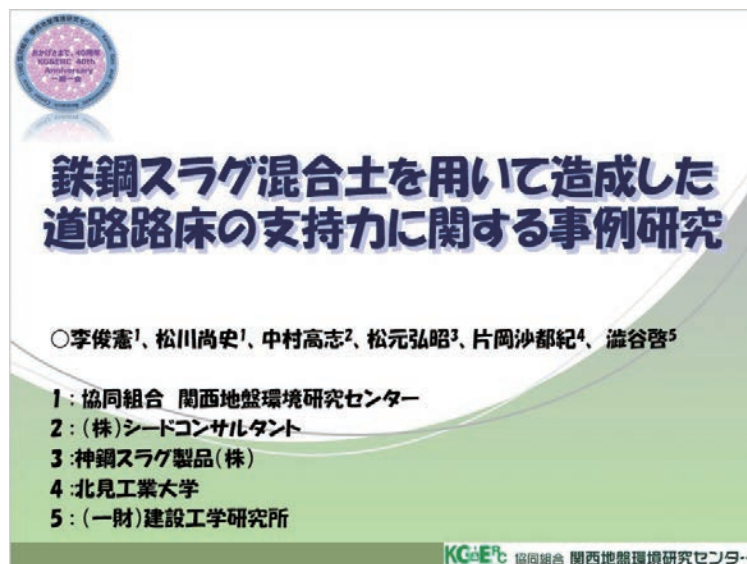
地盤技術室 李 俊憲^{い じゅんほん}

この度、7月11日（火）から3日間、福岡市内の福岡国際会議場で開かれた第58回地盤工学研究発表会に参加致しましたのでご報告させていただきます。

発表は4.地盤挙動（地震時の地盤挙動を除く）、地盤改良④のセッションに参加し、「鉄鋼スラグ混合土を用いて造成した道路路床の支持力に関する事例研究」というタイトルで口頭発表致しました。この論文のキーワードは、盛土、鉄鋼スラグ、支持力です。

鉄鋼スラグは含有する石灰の影響で水と反応することにより、pHが10～12のアルカリ性を示します。一方で、粒度分布が良く、硬くて角張っていて噛み合わせが良い粒子群から構成されているので、細粒分が多い低品質土の「粒度改善材」として適切な配合割合で混合攪拌すれば、締固め特性および強度特性の両者が向上するメリットも報告されています。当論文では支持力に着目し、道路盛土路床への適用性について検討を行いました。まず、神戸市内の宅地造成現場から採取した現地発生土と鉄鋼スラグを異なる容積比で混合した試料を用いた一連の室内試験（物理試験、締固め試験、CBR試験）を実施しました。次に、室内試験結果から決めた最適な配合比（25%）を用いて、現場内の道路部に鉄鋼スラグ混合土（以下、混合土）を用いた実盛土を造成し、簡易支持力測定器（キャスポル）により現場CBR値を測定しました。その結果、混合土は路床として十分な支持力を有することを確認できました。

今後、施工性に優れ環境にもやさしいリサイクル材料である鉄鋼スラグの盛土や路床への利用拡大が期待されます。この論文は、センターの松川、シードコンサルタントの中村様、神鋼スラグ製品の松元様、北見工業大学の片岡先生、建設工学研究所の澁谷先生（センター顧問）のご指導とセンター皆様のご配慮のお陰だと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。大変勉強になりました。今後とも宜しくお願い致します。



小委員会メンバー名簿

教育・技術小委員会名簿 (2023.04-2025.03) Ver.2023.04

	氏名	所属
担当理事	東原 純	中央開発(株)
	高松 博司	(株)キンキ地質センター
	甲斐 誠士	大日本タイヤコンサルタント(株)
	八谷 誠	(協)関西地盤環境研究センター
1	木村 耕治	日本基礎技術(株)
2	五十嵐慎久	キタイ設計(株)
3	島田 徹也	基礎地盤コンサルタンツ(株)
4	新井 靖明	(株)キンキ地質センター
5	谷垣 嘉基	(株)タニガキ建工
6	佐川 厚志	中央復建コンサルタンツ(株)
7	辻 貴博	(株)地域地盤環境研究所
8	澁谷 奨	(株)地圏総合コンサルタント
事務局	金津 正子	(協)関西地盤環境研究センター
	三好 功季	
	林 峻平	

2023年7月3日現在

広報小委員会名簿 (2023.04-2025.03) Ver.2023.04

	氏名	所属
担当理事	窪田 博之	(株)アテック吉村
	藤井 勉	(株)エイト日本技術開発
	高村 憲明	(株)K G S
	竹内 功	(株)関西土木技術センター
	八谷 誠	(協)関西地盤環境研究センター
1	荒谷 賢一	(株)関西土木技術センター
2	中谷 英之	(株)インテコ
3	杉原 普作	中央開発(株)
4	曾根 直樹	ハイテック(株)
5	長谷川 智昭	(株)日建設計
6	高柳 昂	(株)キンキ地質センター
7	工藤 高弘	(株)ビュー設計
8	北川 高行	(株)東京ソイルリサーチ
事務局	稲田 朋子	(協)関西地盤環境研究センター
	平松 翔輔	
	仲西 渉	

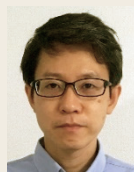
委員会新メンバー紹介 (教育・技術小委員会) ①



日本基礎技術株式会社
関西支店 調査部
木村 耕治

この度、教育・技術小委員会の委員長を仰せつかることになりました日本基礎技術(株)の木村です。

委員としては転勤先から関西に戻ってきた2016年度から務めさせていただいており4期目となります。皆様がそれぞれ忙しい仕事を抱えておられる中での活動となりますが、せっかく委員会として貴重な時間を共有するわけですから、この会を有意義なものにはしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



中央復建コンサルタンツ株式会社
佐川 厚志

教育・技術小委員会に参加させていただくことになりました、中央復建コンサルタンツの佐川です。入社以来、土質関係の業務に携わってきました。教育・技術小委員会の活動を通じて、委員やセンター職員の方々と協力し、少しでも業界の活性化に貢献できればと考えております。よろしくお願いいたします。



キタイ設計株式会社
調査部 防災地質 G
五十嵐 慎久

今回、2期目の教育・技術小委員会に参加させていただくことになりました、キタイ設計(株)：五十嵐です。2023～2024年度の任期では、副委員長も仰せつかることになりました。

1期目は右も左もわからない中で、さらに任期中のほとんどの期間がコロナ禍の期間と重複したことにより、教育・技術小委員会でも思うような活動ができなかった印象があります。今回の任期中には、センターの職員の皆さんと組合員各社の特に若手の皆さんとの交流や技術的な研鑽を図っていただけるように、微力ながらお手伝いさせていただければと思います。



基礎地盤コンサルタンツ株式会社
島田 徹也

今年度より、教育・技術小委員会に参加させていただくことになりました、基礎地盤コンサルタンツ(株)の島田と申します。会社ではジオラボセンターに所属しており、土質・岩石試験に携わっています。

[土質・岩石試験に携わっている我々の使命として]

- ・土質・岩石試験は要素技術である
- ・そのため、高品質なデータの提供が欠かせない
- ・試験技術者の試験技術向上と研鑽が必要になる
- ・その結果が、顧客および得意先への信頼性向上に繋がっていく

このような背景のもと組合活動を通じて、より多くの皆さんに土質・岩石試験を知ってもらい、地盤工学の発展および社会貢献の一助に繋がればと考えています。併せて、試験業界に興味を持ってもらえるよう微力ながらお手伝いさせていただければと思います。

よろしくお願いいたします。

委員会新メンバー紹介（教育・技術小委員会）②



株式会社 タニガキ建工
調査設計部
谷垣 嘉基

今年度より教育・技術小委員会に参加させていただくこととなりました（株）タニガキ建工の谷垣です。昨年度末まで地方公務員として、河川改修事業・砂防事業・災害復旧事業等に従事しておりました。

本年度からは、（株）タニガキ建工に入

社し、配属された調査設計部にて、主に和歌山県内のコンサルタント業務に従事しています。6月初旬の豪雨では県内でも多くの河川・土砂災害が発生したため、入社早々忙しい日々を送っています。

センターで実施されている室内土質試験について、知識不足な点があると思いますが、今後、この分野を勉強し、委員会活動のお役に立てるよう努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員会新メンバー紹介（広報小委員会）



株式会社 インテコ
中谷 英之

前期より引き続き、センター「広報小委員会」に参加させていただく（株）インテコの中谷と申します。今期は、副委員長を務めさせていただきます。

さて、前期は、センター創立40周年やセンターニュース400号記念と節目の年ではありましたが、残念ながら、コロナ禍の影響が大きく、さみしい活動となりました。

今期こそは！コロナ禍も明け、アクティブな広報活動になればと思います。

センターニュースも新しい企画を進めたく、センターの方、委員の皆さんと色々な意見を出し合いながら、組合員の皆様へ有意義な広報誌になればと思います。

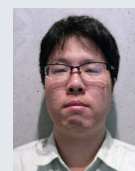
また、いつも読んでいただいているセンターニュースをはじめ、組合員の皆さんからも、広くご意見、アイデアをいただければ幸いです。

微力ながら、精一杯、務めたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。



株式会社 ビュー設計 管理部
工藤 高弘

この度、センター広報小委員会の活動に初めて参加させていただきます株式会社ビュー設計の工藤と申します。コロナ禍という長いトンネルからようやく抜けだし、広報等も活発に活動が出来るようになるかと思っています。微力ではございますが、全力で努めて参りたいと思います。宜しく願い致します。



株式会社 東京ソイルリサーチ
技術調査部 北川 高行

このたびセンター広報小委員会に参加することとなりました、株式会社東京ソイルリサーチの北川と申します。主に土質試験、時折岩石試験でお世話になっております。

センターの取り組みについてこれから積極的に発信していければと思います。よろしく願いいたします。

圧密試験装置を増設しました

地盤技術室 服部 健太

2023年7月25日に空圧載荷式圧密試験装置10連（テスコ製）を増設致しました。

2013年に圧密試験装置の更新を開始し約10年、現在空圧載荷式圧密試験装置（テスコ製）50連、電動載荷式圧密試験装置（マルイ製）5連、合計55連が稼働可能となっております。

55連も圧密試験装置を設置しており、おそらくこの台数は、日本一と自負しております。

今後も圧密試験機に限らず、最新の土質試験機導入を進め、皆様方に迅速かつ高品質なデータの提供が出来るよう努力致しますので、益々のご支援ご協力をお願い致します。

空圧載荷式圧密試験装置（KS-20220）10連

- ・メーカー：テスコ株式会社
 - ・圧密荷重：10～5120 (kN/m²)
- 50段階までの任意荷重が可能



委員の独り言

2023年夏、ホント、暑い日が続きますが、、異常な暑さの中、皆様、お元気にされてますでしょうか。

2007年に「猛暑日（最高気温が35℃以上の日）」が定義されたらしいですが、この10年、20年で猛暑日の発生日数がグンっと増えたように感じております。（以前は、多くて、月2～3日程度だったのが、最近では月に10日以上が当たり前になっているような。。。）

初老の小生、干からびそうになりながら、増えるシミをどうすることも出来ずに現場立会に勤しむ今日この頃です。

そんな中、冷感の首輪、扇風機付の作業着、冷感下着、-30℃の冷却スプレー、ヘルメット下の濡らす帽子等々、色々な暑さ対策グッズを駆使して暑さをしのいでおりますが、未だ、「これ！！」といった物に巡り合っていないのが現状です。皆様、何かいいグッズがあれば、お教えいただきたく、お願い申し上げます。

皆様の2023夏現場が、無事に終わることを切に願い、「委員の独り言」を締めたいと思います。

（長谷川智昭 記）



編集後記

残暑厳しい折、皆様いかがお過ごしでしょうか。この文章を書いている8月中旬はひどい暑さで仕事にも支障が出ています。編集後記を考えようにも頭が回りません。刻々と締め切りが近づく中、悪知恵が働きました。AIにゴーストライターを頼めばいいのだと。何かと話題のChat-GPTで文章を作成してみました。文書を作成するにあたり条件を設定する必要があるので「協同組合関西地盤環境研究センターが発行するセンターニュースの巻末の文章を考えてください。300字程度、テーマは自由」と指定しました。すると以下のような文章が作成されました。

地域の皆様へ感謝の気持ちを込めて、協同組合関西地盤環境研究センターからのセンターニュースをお届けいたしました。私たちは、持続可能な地盤と環境の実現に向けて、研究と実践を続けてまいります。地球の未来を支えるためには、私たちの行動が大きな影響を持つことを認識し、共に取り組んでまいりましょう。センターニュースを通じて、最新の研究成果や取り組みをお伝えし、皆様と共有する機会を大切にしています。今後も私たちは、地域と連携しながら、より良い環境づくりに貢献してまいります。どうぞ引き続き、私たちの活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。最新情報はウェブサイトをご覧ください。

細かな条件設定をしていないせいかどこの団体にもあてはまりそうな文章になってしまいました。しかし数秒でこのような文章が作成できる点は驚きました。メールアドレス等登録すれば無料で使用できますので、皆様も有効活用いただければと思います。

(キンキ地質センター 高柳)



組合員・賛助会員名簿

【組合員名簿】

(50音順)

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アテック吉村	(072)422-7032	株式会社 タニガキ建工	(073)489-6200
株式会社 池田地質	(06)6797-2280	株式会社 地域地盤環境研究所	(06)6943-9705
株式会社 勇コンサルタンツ	(06)6306-6907	株式会社 地圏総合コンサルタント 四国支店	(0897)33-3123
株式会社 インテコ	(0742)30-5655	中央開発 株式会社 関西支社	(06)6386-3691
株式会社 エイト日本技術開発 関西支社	(06)6397-3888	中央復建コンサルタンツ 株式会社	(06)6160-1121
株式会社 エムアールソイル	(06)6195-6712	株式会社 東京ソイルリサーチ 関西支店	(06)6384-5321
株式会社 オキコ コーポレーション	(06)6881-1788	株式会社 東建ジオテック 大阪支店	(072)265-2651
応用地質 株式会社 関西事務所	(06)6885-6357	東邦地水 株式会社 大阪支社	(06)6353-7900
川崎地質 株式会社 西日本支社	(06)7175-7700	土質コンサル 株式会社 大阪事務所	(072)634-6373
株式会社 関西土木技術センター	(075)641-3015	株式会社 中堀ソイルコーナー	(06)6384-9069
株式会社 基礎建設コンサルタント	(088)642-5330	株式会社 日さく 大阪支店	(06)6318-0360
基礎地盤コンサルタンツ 株式会社 関西支社	(06)4861-7000	株式会社 日建設計	(06)6203-2361
キタイ設計 株式会社	(0748)46-2336	株式会社 日本インシーク	(06)6282-0310
株式会社 キンキ地質センター	(075)611-5281	日本基礎技術 株式会社 関西支店	(06)6351-0562
株式会社 KGS	(072)279-6770	日本物理探査 株式会社 関西支店	(06)6777-3517
株式会社 建設技術研究所 大阪本社	(06)6206-5700	ハイテック 株式会社	(06)6396-7571
興亜開発 株式会社 関西支店	(072)250-3451	株式会社 阪神コンサルタンツ	(0742)36-0211
国際航業 株式会社 関西事業所	(06)6487-1111	阪神測建 株式会社	(078)360-8481
株式会社 国土地建	(0748)63-0680	株式会社 ビュー設計	(088)665-7360
サンコーコンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)6121-5011	復建調査設計 株式会社 大阪支社	(06)6392-7200
有限会社 ジオ・ロジック	(072)429-2623	双葉建設 株式会社	(0748)86-2616
株式会社 白浜試験	(0739)42-4728	報国エンジニアリング 株式会社	(06)6336-0228
株式会社 ソイルシステム	(06)6976-7788	株式会社 メーサイ	(06)6190-3371
株式会社 大同ソイル	(0745)63-1850	明治コンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)7178-1659
大日本ダイヤコンサルタント 株式会社 江坂オフィス	(06)6339-9141	株式会社 ヨコタテック	(06)6877-2666

【賛助会員名簿】

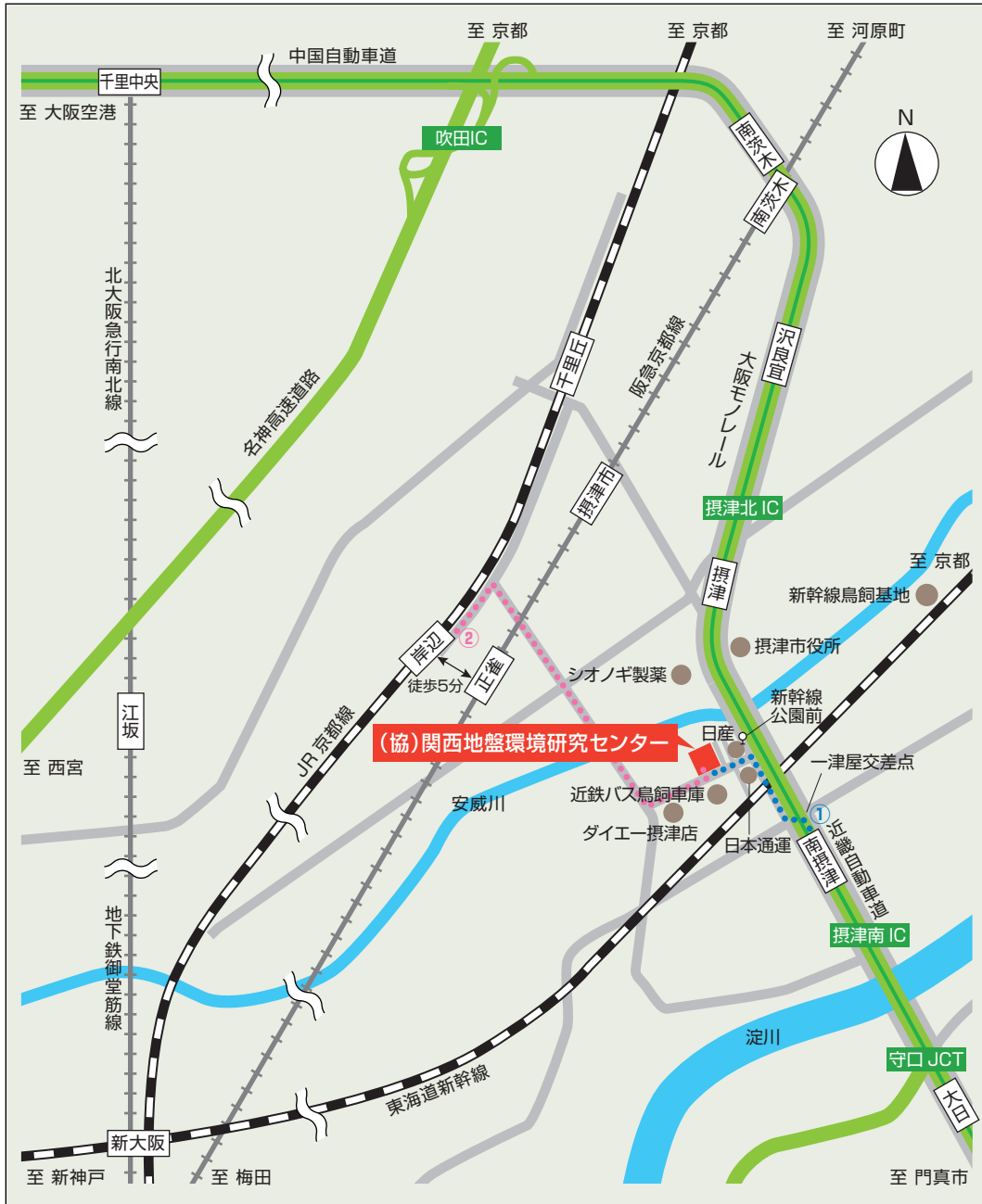
会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アサノ大成基礎エンジニアリング 関西支社	(06)6456-1531	株式会社 総合技術コンサルタント	(075)312-0653
株式会社 アーステック東洋	(075)575-2233	株式会社 ソルブレイン	(06)6981-3330
株式会社 JFDエンジニアリング	(06)6531-3326	株式会社 兵庫コンサルタント	(0799)28-1074
株式会社 創研技術	(088)652-0077	有限会社 ビュアソイル	(072)440-5137

2023年8月31日現在

発行 協同組合 関西地盤環境研究センター
〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号
TEL 06-6827-8833 (代)
FAX 06-6829-2256
e-mail info@ks-dositu.or.jp

編集 広報小委員会
編集責任者 八谷 誠
印刷 千里丘印刷

<https://www.ks-dositu.or.jp>



①南摂津駅(大阪モノレール)より徒歩12分 ②JR岸辺駅よりタクシーで約10分

新大阪駅より地下鉄御堂筋線に乗り千里中央駅でモノレールに接続、千里中央駅から南摂津駅まで21分

協同組合 関西地盤環境研究センター

〒566-0042 大阪府摂津市東別府1丁目3-3

TEL.06-6827-8833(代表)

FAX.06-6829-2256(地盤技術室)

<https://www.ks-dositu.or.jp>